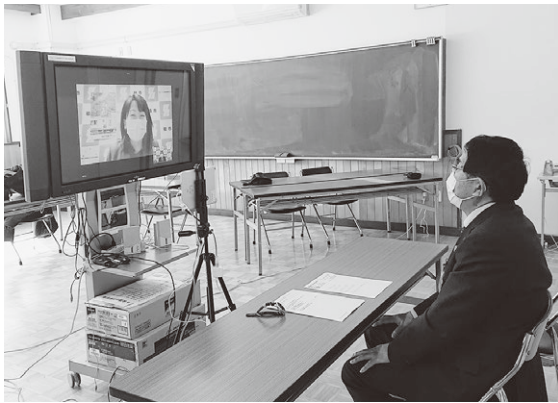


**オンラインで交流を深める
千葉県柏市長と只見町長
「オンライン面談」**

ふるさと交流都市提携を結ぶ柏市と相互友好を深めるため、太田和美柏市長と渡部町長が、2月14日にオンライン面談を行いました。

面談は、只見高校甲子園出場や雪まつり等の話題に触れながら、お互いの市町の取り組み等について情報交換をしました。

両市町長は「トップや関係者の繋がりがだけでなく、両市町の子どもたちや民間企業・団体同士でも交流を広げていけるようにしていきたい」と交流の今後の展望について話しました。



▲太田市長は「只見町をはじめ福島県は、縁があり大変好きなところですよ」と話されました

**先を見据えた地域づくりを考える
「第6回越後・南会津街道観光・地域づくり円卓会議」**

新潟県三条市・南会津町・只見町の3市町が地域づくりを検討する「第6回越後・南会津街道観光・地域づくり円卓会議」が、2月14日に開かれました。

滝沢三条市長は「この地域の未来に向けた意見交換をすることで、3市町の連携がより強まることを願っています」と挨拶をしました。

その後、3市町が連携して地域の魅力などを発信するホームページ「八十里越街道」の公開に向けた最終調整を行いました。



▲円卓会議をきっかけに始まった市町連携事業の進捗報告なども行われました



▲「八十里越街道」のページにアクセスします

**只見高校の応援のために
両沼地方町村会、
金山町・金山町議会が寄附**

2月21日に両沼地方町村会、同月25日に金山町と金山町議会が、只見高校野球部の甲子園出場応援のために只見町に寄附をされました。

三澤会長は「只見高校は会津の希望。甲子園でも元氣あふれるプレーを見せてほしい」と話しました。



△21日来庁された会長の三澤湯川村長(右)、副会長の舟木昭和村長(左)



▽25日来庁された押部金山町長(左)、五ノ井議長

**只見線復興のために
合同会社メーデルリーフ、
松屋酒店が寄附**

合同会社メーデルリーフと松屋酒店が、寄附のために2月21日に町役場を訪問しました。

合同会社メーデルリーフは、只見線マグネットシート等の只見線関連商品の売上から金152,710円、松屋酒店は、店内レジ横に只見線募金箱を設置し集めた金296,646円をそれぞれ町に寄附をされました。

合同会社メーデルリーフの酒井さんは「秋の只見線全線開通に向けて有効に活用してほしい」、松屋酒店の吉津さんは「皆さんからの善意です。只見線のために継続して集めていきたい」と話しました。



▲只見線復興のため、有効に活用いたします

農業にも子どもたちの取組みを

只見町農業再生協議会総会

令和3年度只見町農業再生協議会第2回総会が、1月28日に開催されました。

議長を務めた渡部町長は「日頃より農政全般において尽力をいただきありがとうございます」とあいさつをしました。

総会では、令和4年度只見町農業再生協議会水田収益力強化ビジョンの策定方針である「農業用マイクロプラスチック問題への対応」について、「町内の小中高校生がESDや海洋教育に力を入れる中で、農業用肥料に使われているプラスチック被膜が水田から河川に流れ、海を汚染していることが全国的に問題となっている。そこで水稲作付においてマイクロプラスチックを使用しない、水稲初期一発施肥による実証実験を行う」ことなどが協議されました。



ESD/ユネスコスクール東北フォーラム

只見中学校最優秀賞受賞

オンラインで開催されたESD/ユネスコスクール・東北コンソーシアム探求型学習・課題研究会が、1月29日に開催され、只見中学校が2年連続となる最優秀賞を受賞しました。増田司さん（2年）と佐藤優妃さん（2年）は寸劇を取り入れた発表をし、長谷部優歌さん（1年）は、英語でSDGs実践概要発表をしました。

参加した発表者は、「東北各地の高校や中学校の取組みや考え方に触れることができ大変有意義でした」と話しました。



▲オンラインでの研究会に参加した 増田さん(左)、佐藤さん(中)、長谷部さん(右)

只見中 中学生記者が書く SDGsコラム

第2回

すぐにできるエコを只見町から

文：元SDGs委員長 ^{すずき}鈴木 ^{ねお}音緒（3年生）



私は2年生の時、学校の行事で新潟県の海に砂浜のゴミ拾いと魚釣り体験に行きました。前年ゴミ拾いを経験した先輩からもゴミが多いことを知らされていました。現地に近づきバスの車窓から見ていた時は、ゴミが少し確認できる程度でしたが、実際に砂浜に立つとそのゴミの多さに唖然としました。そのゴミの中には、プラスチックでできた容器や発泡スチロール、サンダルや靴まで流れ着いていました。容器のラベルから判断すると、遠く大陸から流れ着いたと考えられるペットボトルもありました。拾いながら考えたのが、外国に注意を喚起することよりも、上流に住む私たちがゴミをきちんと始末をするということが大切だということです。中にはポイ捨てをする人もいるかもしれませんが、多くのゴミはゴミ箱からこぼれ落ちたり、お菓子の包装がハンカチを取り出す際にポケットから出てしまうこともあるようです。風に吹かれてこれらのゴミが只見川に流れてしまうことは容易に予想できます。川は海に繋がっているは誰でも知っていることです。ちょっとした心遣いで、こういったゴミがなくなり、下流で生活する人々に迷惑をかけなくて済むのです。

海から遠い私たちが、#14「海の豊かさを守ろう」に協力できるとしたら、まずはここからではないでしょうか。自分たちで身近にできるところからやっていきましょう。